

日米協力 FIRST・AOTS-グローバルサウス連携プログラム
マレーシア原子力関係者幹部招聘

JICC は(一財)海外産業人材育成協会(AOTS)と連携し、日米協力 FIRST プログラムの一環として、マレーシアのエネルギー転換・水変革省 (PETRA) 、MyPower、国家エネルギー委員会、科学技術革新省、マレーシア原子力庁、TNB (国営電力会社) 、PETRONAS (国営石油会社) 等の原子力関係機関の幹部を日本に招聘し、AOTS 講師として講義を実施するとともに、関連施設の視察を行った。

【経緯/目的】;

マレーシア政府は、2050 年のカーボンニュートラル達成に向け原子力発電の導入検討を進めており、第 13 次マレーシア計画においても 2031 年までに 300MW 級原子力発電の導入検討が明記されている。本招聘は、同国の取組を支援するため、SMR の責任ある利用に関する日米の原子力国際協力政策、原子力基盤整備および産業動向への理解促進を目的として実施した。

【実施内容】;

オープニングでは、経済産業省および在日米国大使館より挨拶が行われた。キーノートでは、METI より日本の原子力国際協力、エネルギー転換・水変革省 (PETRA) よりマレーシアの原子力導入検討状況がそれぞれ共有された。日米専門家により、原子力基盤整備 (制度、サイト要件、公衆理解促進等) に関する講義を実施するとともに、日本原電敦賀発電所等の視察を行った。さらに、内閣府原子力委員会および駐日マレーシア公使への表敬訪問を実施したほか、IHI、JGC、日立 GE ベルノバニュークリアエナジーによる SMR 関連プレゼンテーションおよび IHI の原子力機器製造工場視察を行った。

【成果】;

- ① 講義および施設視察を通じ、日米の原子力国際協力政策、規制制度、人材育成およびステークホルダー対応等に関する理解が、マレーシアの原子力関係者の間で深まった。
- ② 関係機関との意見交換や産業界によるプレゼンテーションを通じ、SMR を含む原子力技術およびプロジェクト動向への理解が進むとともに、マレーシアにおける原子力導入検討に向けた課題認識が共有された。さらに、今後の日米マレーシア協力の方向性が確認されるとともに、日米協力の下での継続的支援の重要性が改めて認識された。

